7,8 月号

ステパノだより

No.223

今月の聖句

『天地は滅びるが、
わたしの言葉は決して滅びない。』
マタイによる福音書　第24章35節

◎7月の予定
5日(木) 聖書教室・地域との交流（中）
7日(土) 学校説明会①
13日(金) 教務委員会・給食終了
16日(月・祝) 神奈川全私学展
18日(水) サマーキャンプ事前指導
18日(水)～20日(金)
小1～小3　自宅学習日
19日(木)～21日(土)
サマーキャンプ（小4～中3）
23日(月) 一学期終業礼拝・教職員協議会

◎8月の予定
20日(月)～22日（水）
日私小連夏季教職員研修
21日(火) 漢字検定
22日(水)・23日(木)
日私小教頭研修会
25日(土) 私立小水泳記録会
30日(木) 教務委員会
31日(金) 全校登校日・教職員協議会

◎9月の予定
3日(月) 二学期始業礼拝
8日(土) ステパノまつり

音楽会♪

去る６月１６日（土）、キリスト教学校教育同盟第６３回東日本小学校教教職員協議会（於平和学園）において、聖ステパノ学園の教育について発表しました。

〈ご案内〉
2018 神奈川全私学展
7月16日(月・祝) 10時～16時
パシフィコ横浜　展示ホール

《学園共通》

☆水泳教室・水泳訓練
もう水泳シーズンです。今年も大磯ロングビーチとポートハウス照ヶ崎で行います。児童生徒が目に見えて力をつけていくシーンが今年も見られるでしょう。

6／23（木）ポートハウス照ヶ崎　小・中
7／3（火）ポートハウス照ヶ崎　小
7／4（水）ポートハウス照ヶ崎　中
7／10（火）大磯ロングビーチ　小・中
7／11（水）大磯ロングビーチ　小・中
7／12（木）ポートハウス照ヶ崎　小・中

☆ステパノサマーキャンプ
7／19～21（木・金・土）
静岡県立富士山麓山の村

今年は、富士山の登山道を短い距離ですが歩いてみようと思います。せっかく富士山へ行くのですから。どんな景色が見られるでしょう。班ごとに色違いのバンダナを目印として、自分たちで染めたものを使います。上下級生と力を合わせて生活します。

☆ステパノ祭
9／8（土）
係が早い時期から動き、準備を重ねています。新体育館建築のため、夏休みに旧体育館を取り壊します。そのため、会場をどのように配置するか、また、どうしたら大磯町の方々に喜んでいただけるか、と工夫を重ねています。どうぞお楽しみに。

ご支援有難うございます
宜しくお願い申し上げます。

学園長　小　川　正　夫

五月号のステパノだよりで皆様にお願い申し上げました体育館棟建設基金の為の募金は、皆様の温かいご理解とご協力を戴く中で順調に推移しており六月末現在の集計で一八三件の方々より一二三六万円の御寄附を頂戴いたしております。心からの感謝で胸が一杯です。

現在聖ステパノ学園に在学中の子ども達は勿論、来年の春以降入学してくる子ども達がこれから五〇年間、体育館や特別教室を利用できるよう、また教職員も新しい環境でより良い教育ができるよう計画を進めております。

募金の期間は向こう三年間ですが、聖ステパノ学園で生活する児童生徒たちに可能な限り、より良い環境を用意してあげたいと思います。これからもご協力を宜しくお願い申し上げます。

去る五月下旬、アメリカ、アイオワ州のモーニングサイド・カレッジから五十名の学生が来校しステパノ学園の子ども達と交流の機会がありました。海を見るのが初めてという学生も多く、こぼれるような笑顔と天使のような美しい歌声が印象に残ります。

学生の皆さんは海外旅行中は出費を倹約したいと思うのですが、体育館棟建設のためにと、ポケットマネーを出し合って二万二千円を寄付してくださいました。嬉しいです。

現在の教職員室は撤去し、跡地は整備して井戸や小動物小屋を活かして造園、子ども達が楽しく遊べる憩いのガーデンをつくります。

子ども達が新しい体育館、新しいガーデンで元気よく体を動かし、楽しそうに遊んでいる姿を想像すると胸が躍ります。

海の見えるホール、森の中の教室、小学校新校舎、すべて皆様の先輩の方々、聖ステパノ学園の働きを温かく見守り、支援して下さる数多くの方々、そして現役の皆様のご支援を戴く中でこそ進めてくることができました。

小学校新校舎、体育館棟の建設も皆様のご支援が学園の歴史に実績として残ります。

教職員も一人ひとり皆様のご期待に応えられるよう毎日誠実に努力してまいります。

ご支援ご協力宜しくお願い申し上げます。

＊＊＊

近年、地球規模で自然災害が報道され、国内でも異常気象で公共交通機関が影響を受けることが少なくありません。聖ステパノ学園では、安全委員会が中心になって様々な状況下に置かれた子ども達の安全確保を考えていますが、近い将来大規模な地震災害、殊に海の近くでは、それに伴う津波の襲来を心配する報道をよく聞かされます。

大きく広がった相模湾の中央あたりに位置する聖ステパノ学園がある大磯町海岸で予想される最大規模の津波の高さは、公式発表ではありませんが、大磯町の役場の調査では一九メートルと聞いております。

新しく建設される体育館の場所は海抜二〇メートル以上あり、海の見えるホールは海抜四〇メートルあります。毎週木曜日には小学生は朝、訓練を兼ねて海の見えるホールで中学生と一緒に礼拝の時間を持ちます。

先日、地震と津波を想定した避難訓練と子ども達の引き取りを保護者にお願いしましたが、保護者の方から「大規模な津波が予想されるような大地震が起きた場合、災害が落ち着くまで、一番安全と思われ海の見えるホールや森の中の教室で保護して欲しい。実際問題として交通機関が正常に機能しているとは思えないし引き取りは困難ではないか」というご意見を戴きました。勿論、子ども達が在校中の場合、保護者が迎えに見える迄大切に見守り、お預かりしますのでご安心ください。

このようなご意見も戴きました、悪天候で交通機関の混乱が予想されても休校にしないで欲しい、親が責任を持つので、子どもを通学させてほしいということでしたが、家と学校の間で親や教師が目の前にいないとき一人災害や混乱に巻き込まれ、親や教師に出会うこともなくバラバラだった時、恐怖と混乱の中では安全が確保できないかもしれません。

だいぶ前のことですが、新潟地震の時、昼間でしたが七二％の家族が離れ離れになり、四二％の子ども達が親と出会うのに一〇時間以上かかったと聞いています。家と学校の間の安全確保は日々相談しておきましょう。

癒しの時間

教諭　高桑　恵

学校の中で生活していると、毎日が本当に忙しく、慌ただしく過ぎていきます。こんなに時間に追われていても、子ども達は、健気によくがんばっています。でも、中には毎時間しっかりやるのは、難しい子もいます。友達関係でトラブルがあったり、学習面で難しかったり。いろいろな事が積もり積もって上手くクラスにとけ込めない場合もあります。そういう子ども達にこそ、ぜひ経験させたいことがありました。陶芸です。

昨年までは図工の先生が陶芸を教えて下さっていて、中学の陶芸部にも小学生の希望者が大勢参加していました。しかし、今年は諸事情で小学生は陶芸部への参加ができなくなり、触れる機会が全くなくなってしまい、とても残念に思っていました。

そんな折、ひょんなことから陶芸家の岡村友太郎さんがボランティアで子ども達に陶芸を教えてくださることになりました。岡村先生は【大磯うつわの日】の主催をされていて、サッカーのワールドカップU15のトロフィーも作られた方です。早速、岡村先生にお願いして、クラブ活動の時間に陶芸をしました。

先生は、他校や造形教室で子ども達に長年ご指導されているので、子ども達もすぐに打ち解け、先生の魔法のような技を間近で見て嬉しそうにしていました。土の感触がなんとも心地良く、子ども達の心が整っていくのが分かります。さっきまで、表情の冴えなかった子やおしゃべりの止まらなかった子が、まるで別人のように黙々と土との対話を楽しみ、笑顔が自然とこぼれてきます。

土台となる部分をパンパンと叩き、形を作っていきます。長方形に作ったものの両はじを合わせて水でとめて、底になる部分を作ってくっつけたら、花瓶の出来上がり。土台を丸くして、へびのように長いひも状のものを土台にしっかり重ねていって、後は好きな形に整えればお茶碗に。土台の形によって、入れ物にもなります。思っていたよりも簡単にいろいろな形が出来上がるので、子ども達も安心したようでした。陶芸をするのが、初めての子もいて大丈夫かなと思いましたが、作り方もすぐに覚えて、夢中で取り組んでいました。

「これは、お菓子を入れる物だよ。」
「こっちは、ふたを付けてみたんだ。」
「これは、もぐらの形だよ。」
「花瓶の底の部分を安定させるためにわざと下の所は残して、カットはしないの。」
「お母さんにあげようと思ったけど、上手にできたから自分の物にしちゃお。」
などなど。みんながあれこれ考えて、工夫して作っていたことが分かります。それぞれの個性が光る良い作品が出来上がり本当に感心しました。一つとして、同じ作品は、ありません。そればかりか、発想が豊かで味があって、驚くような出来栄えです。みんなの顔が笑顔になって、和やかに心が満たされて、とても素敵な時間を過ごしました。子ども達も同じように感じたようで、素直な感想を話してくれました。

「こんなに楽しいことさせてくれてありがとう！」
「また、やりたいなー。」
「つぎは、だれかにプレゼントするもの作る。」
と、創作意欲は増す一方です。

私自身も陶芸に何度か挑戦しましたが、何回やっても自分が思った通りにはいきません。でも、楽しいのです。何もないところから自分のイメージを膨らませて、世界に一つだけの作品を作っていく。この楽しさを知ったら、もう止められません。次は、ああしよう。ここを少しやりすぎたから、今度はこうしてみようというアイデアが次々に浮かぶのです。そして、土が自分の心の乱れを吸収してくれたかのように頭の中も整理される気がします。何より心がとても満たされるのです。神様が創られた土に触れる時、例えようのない癒しを受けるように思います。生活している中で、ほんの少しでも自分の心の声に耳を傾けるような時間を大切にしたいものです。神様の御恵に感謝しつつ。

連鎖

教諭　黒澤　優

新年度初めての中間テストが終わると、中学校では劇団四季のミュージカルを観に劇場まで出かけます。子どもたちにとって、テスト終わりの楽しみな行事のようです。今年は「ライオンキング」を鑑賞しました。

劇場に到着して、子どもと一緒に席に着くと、どこかで見覚えのある制服を着た生徒たちが劇場に入ってきました。「まさか…」と思ったけれど、その「まさか」が起こりました。私の母校の生徒たちだったのです。束の間でしたが、私は、母校の先生方に挨拶する機会を得ました。先生たちは、私が教員として働いていることをとても喜んでくださいました。

今回鑑賞した「ライオンキング」では、「サークル・オブ・ライフ（命の連鎖）」の理念を作品を通して伝えているそうです。主人公のシンバの父であるムファサ王は「ライオンも死ねば草となり、その草を草食動物が食べ、その草食動物をライオンが食べる。全てのものはこのめぐりめぐる偉大な生命の調和に結びついている。」と息子に語りかけています。

この日、私は母校の先生方と会ったこともあり、母校での出来事を観劇中にふと思い出すことが何度かありました。そのたびに作品の内容と思い出を絡めながら、なぜか、どこか懐かしくて、あたたかな思いが胸にこみあげてきました。

観劇を通して、「サークル・オブ・ライフ（命の連鎖）」は、私の人生でも起こっていたのだと思わされました。（劇中の意味合いとは異なるかもしれませんが…）自分自身がさまざまな人との出会いや経験の中で育まれてきたこと、今の自分があるのは私を育ててくれた人たちがいるからであるということを今となって現実味を帯びて理解しました。私がそう育てられたように、私自身も教員のひとりとして子どもたちに、良い連鎖を生む者でありたいです。自分の子どもの頃を思い出してみても、現在の日常よりも子どものころの日常の方をはるかに鮮明に思い出すことができます。そう思うと、私の仕事は責任が重くもあり、子どもたちの人生の貴重な時間に関わらせていただいているという喜びの多いものでもあると思います。学校では毎日いろいろなことが起こります。そのたびに子どもたちからも毎日たくさんのことを学ばされています。子どもたちも、私の人生の中で良い連鎖を生んでくれている一人ひとりなのです。

「連鎖」という言葉から思い出すことがもう一つあります。先日、神奈川県の指導主事の方々が本校にお見えになり、私の授業を見てくださいました。外部の方々から、授業についての助言を頂けるのは、めったにない貴重な機会です。久々の研究授業ですので普段できないことを思い切って試す良いチャンスでもありました。中学一年生のクラスにて、子どもたち自身で考えた演技を入れた会話を発表するという授業を行いました。ほぼペア活動でしたので、「授業を聞く」というよりは「ペア同士の学び合い」でした。これまではここまで時間をとって、ペアで活動をすることはありませんでした。今回の授業でだんだんと練習が深まるにつれて、「もっと良い発音にしたい」「暗記して発表したい」「演技をおもしろくしたい」というような子どもたちの向上心の高まりを感じました。子どもたちそれぞれがもつ前向きな気持ちが連鎖し合ったのだと思います。私が授業の中で、どんなに努力しても、子どもたちがお互いに関わり合って、何かを生み出していく力にはかなわないと思わされました。子どもたちが持っているこの力をもっともっと深めていきたいと思います。

聖書の中に、「人が独りでいるのはよくない。」とあります。あたりまえのようですが、これは真理なのだと改めて思わされます。物も情報も簡単に手に入ってしまう世の中で、独りで「なんでもできる」と錯覚してしまいますが、私たちが今の時代に必要なことは何か見極めていく必要があると思います。

手紙

非常勤講師　伴　茉莉子

熊本県のとある廃校に、水曜日の出来事を手紙に書いて送ると見知らぬ誰かの水曜日の手紙が返ってくる、という不思議な郵便局がありました。私が存在を知った時はすでにその郵便局は閉じられた後でしたが、手紙の書き方なども授業で扱っていましたので興味を抱いて調べることにしました。

「郵便局」といっても日本郵便の郵便局がそこにあるわけではなく、廃校になった小学校を利用したアートプロジェクトとして企画されたものでした。専用の便箋を印刷し、水曜日に起こった事柄やその時自分が考えていたことなどを手紙としてしたためます。そして「郵便局」をあて先としてポストに投函します。届いた手紙は年齢や内容などを考慮された上で水曜日の物語を送った人達の誰かに転送される、というものです。

「赤崎水曜日郵便局」と銘打たれたこのプロジェクトは終了後に書籍化され、「郵便局」に届いた手紙の数々や企画にこめられた思いを読むことができました。実際に送ることはできませんでしたが、掲載された手紙を読み、いろいろな水曜日の出来事にふれました。老若男女、色々な世代や立場の人たちが日常を切り取っていました。

例えば、十代の学生が書いた手紙は進路に悩むものでした。自分の進路を決めかねていた折に、周囲の大人達からかけられた言葉とそれに対して自分が何を思っていたのかということが率直な表現で綴られていました。小学生の（おそらく）女の子は、台風がきた話を書いていました。嵐の中、校庭にできた水たまりが海のようだという臨場感のある描写をしながら、なぜか後半は給食に出たアイスクリームの食べ方について語っているという不思議な可笑しみのある手紙でした。

どこかに暮らす見ず知らずの人達が書いた手紙の数々は短編小説のように豊かな文ばかりでした。特別な出来事が起きた水曜日の話であっても、いつも通りといった風の水曜日の話であっても、どれも物語を読んでいるようでした。

「赤崎水曜日郵便局」を知った後、日常を手紙にする妙が文の表現を豊かにしているのではないだろうかと考えました。水曜日郵便局は片道書簡なので返事がもらえるわけではありません（水曜日郵便局は手紙が交換されるだけなので、個人の特定や送り主との直接のやり取りはないのです）が、読む相手がいるとわかって書く文は色々なことを配慮し、丁寧に書こうと背筋を正すような気持ちになるものかもしれません。

これまで授業で書く手紙は宛先を自由にし、文面も手紙を宛てる相手にふさわしいものとしながら自由に書くようにしていました。しかし、突然手紙となっては大人でも書き上げるのに時間がかかるものなので、授業を行う度にどうすれば書きやすくなるだろうかと悩んでいました。本を読み終えた後、授業で書く手紙にも相手を据え、内容やテーマも少し狭めることを思い立ちました。ちょうど小学生の授業が控えていたため、そこで同じ年頃の子が持つような悩みを綴った何種類かの架空の手紙を用意し、返事を書くという形式をとることにしました。

ランダムに配られた架空の手紙、架空の人物に最初は「先生が作ったんでしょ」と面白がっていましたが「手紙は作ったものだけれど、悩みは本当」と告げると一転、真剣に書き始めました。「読書が好きになれない」という手紙には、オススメの本を提案してみたり、読書の必要性を書いてみたり。「速く走れない」という手紙には「自分もそうだった」「気持ちがわかる」と寄り添いながら練習方法を提案するなど、授業の終わりに集まった手紙には、悩みに対して自分がどう感じたか、どうすればいいか、自分ならどうするか、ということが丁寧に書かれていました。

手紙はその向こうに人がいるからこそ手紙たり得ます。たとえ相手が見ず知らず、または架空の人物だとしても「何を」「どのように」書くのか、自分に問いかけながら、相手を思いやって書きます。それは自分の言葉の引き出しをあれこれと探すことを意味し、文を書くにあたって最も大事な作業のように思えました。

【小学校】六月十二日は「音楽会」でした。色とりどりの歌の花がたくさん咲きました。

初参加の小学校一年生に感想を聞きました。

「ドキドキした」
「たのしかった」
「おもしろかった」
「またやりたい」
「きんちょうした」
「ぜんぜんへいきだった」

音楽と過ごしたステキな一日となりました。

小二　P・S

今日、音楽会をしました。いっぱいききました。・・・今までたくさん音楽会を見ました。これまでたくさんのしょうかいをしてきましたが、一番よかったのは、小一です。小一は、「ワワワいっしょに」と「にじ」をうたいました。すごくすばらしくすごせました。ちゃんときけたよ。

小三　U・H

今日は音楽会でした。三年生は、「神のめぐみは」と、「ゆうきの歌」を歌います。

今年は、バイオリンや、オルガン、ピアノなども入ることになっています。二年生が終わり、三年生の番です。オルガンをおした時、音が出ません。スイッチが引かれていなかったのです。さすがに、二度目は音が出ないという事けんはさけたいです。今度はちゃんと音が出ました。気がついたら、「神のめぐみは」が終わっていました。「ゆうきのうた」でも、きれいな声をだせたと思います。こんなにステキな体けんができて、良かったです。

ほんとうに、楽器をやっていて良かったし、パイプオルガンなんてめったにひけないですから、このようなチャンスをくれた音楽の先生、たんにんの先生、神さまに感しゃします。

小四　M・A

今日は、音楽会をやりました。お客さんがいっぱい見にきて、とてもとてもきんちょうしました。そして、四年生の番になったとき、さいしょのきんちょうが、5だったら、10から15くらいになりました。そして、歌う時は口がふるえて、リコーダーの時は、手がふるえてとてもやりにくかったです。でも音楽会にみんな見にきてくれて、とてもうれしかったです。とても楽しい音楽会でした。次はもっともっとがんばりたいです。

小五　A・M

ことしの音楽会では、色々なメロディがまざって一つの音に聞こえました。さいしょに小一でした。小一のみなさんは、「ワワワいっしょに」と「にじ」というかわいらしい歌とダンスでした。小五で、毎回、放課後に練習している時は、らくだったけど、本番になったらすごくきんちょうして足とか声が出なくなったけど、何かわからないけどちゃんと歌えてうれしかったです。中一のみなさんは、「こころをつくして」と「世界に一つだけの花」を歌っていて、女性は声が高く男性は声が低く工夫をして、まるで混声みたいになってステキでした。来年は、さいごの音楽会で小学校を卒業しちゃうけど、これから中学生になっても、音楽会をやる。海の見えるホールの全体、全員に声がひびいてちゃんとみんなにとどくような歌を来年は、歌いたいと思います。

小六　N・A

今日は、三・四時間目に音楽会がありました。まずみんなで「カントリーロード」を歌ってから一年生の発表を聞きました。…先生方の演奏が終わると、いよいよ私たち六年生の発表です。私たちは、毎日毎日練習した「真昼のように」を歌い、「いつも何度でも」を合奏しました。「真昼のように」は、みんな大きな声で歌うことができてよかったです。私もできるだけ大きな声で歌いました。歌が終わると次は合奏です。私は、合奏でピアノをひくことになり、学校での練習や家での練習を毎日、一生けんめいにやりました。今日の合奏は、みんなの音が一つの曲になっていて今までの中で一番良い合奏でした。中学生の発表は、私たちよりも大人っぽく、さすが中学生だと思いました。そしてみんなで最後に「ありがとうの花」を歌いました。私は、音楽が大好きなので、音楽会でいろんな音楽がきけて楽しかったです。

【中学校】観劇で「ライオンキング」を観に行きました。迫力のあるステージで、みな感動していました。

中二　A・S

今日はテストが終わってやっとおちついて解放された感じがしました。ライオンキング、すごくおもしろかったし、いろんなどうぶつが出てきたりして、びっくりしました。

観客席の近くで鳥を飛ばしてくれたり、すごく迫力を感じました。音とかに少しびっくりしてしまいました。また、見に行きたいなと思いました。

中三　S・S

今日は大井町まで行って観劇をしました。見た舞台はライオンキングです。あの男の子、すごかったです。あんなに小さいのにアクロバティックな動きもできるし、声もすごい大きいし。一番おもしろかった所は、あの小さい男の子と、その成長した姿の人が入れかわるとき、ターザンのように登場して「心配ないさ～」って言ってた所です。あの大西ライオンがやっていた所は、ここなんだなと初めて知りました。あと舞台のしかけがすごかったです。色々な所に穴が必要なとき空いて、あの舞台にはほかにどんなしかけがあるのかがすごい気になりました。あと、あの舞台の中にはいくつ穴があくようになっているのか？今日は去年と比べると全然ねむくなりませんでした。ライオンキングはアラジンよりも全体的ににぎやかで元気な感じで、おもしろかったからかもしれません。

＊＊＊＊＊

小学校と一緒に行われた音楽会。合唱や器楽演奏など、それぞれの力を活かして発表しました。

中一　R・O

今日は、音楽会がありました。音楽会は３、４時間目にあって、ホールに入るといろんな人がたくさんいました。中１は二部でやりました。「心をつくして」と「世界に一つだけの花」を歌いました。やっぱり中２、中３にくらべて声が小さくなってしまいました。他の学年もすごかったです！小６も声が出ていてよかったです！明日は打ち上げでホットケーキをやります。楽しみです。

中一　R・S

今日の３、４時間目に音楽会がありました。まず本番の前に中１で歌の練習をがんばって歌いました。その次は本番で小１の歌がとってもかわいい歌で、１年生がおどっていたのでかわいかったです。私達もがんばって歌いました。私はちょっとドキドキしたけど、ちゃんと歌いました。私達はがんばって歌ったと思います。

中二　S・N

今日は音楽会でした。少し緊張したけど、大きな声で歌えました。今までの練習よりも今日の方が良かったです。去年よりも中２はいい歌が歌えたし、他のクラスの発表が良かったし、楽しかったです。

６年生の発表が一番良かったです。

中三　T・K

今日は、中学生最後の音楽会がありました。すごくどきどきしましたが、上手にできました。リコーダーの演奏は２回とも高い「レ」が出たので本当に良かったです。この点は、目標「今まで練習してきた成果一二〇％発揮する！」を達成しました。もちろんパイプオルガンの演奏も大きなミスなくできました。目標半分達成です。最後の音楽会、とてもたのしかったです。今のメンバーでやる最後の音楽会、ステパノ学園でやる最後の音楽会でした。みんな最後はさびしいです。それにしても泣いている子が一人もいなかったのは後悔がないということですかね。自分も後悔はありません。本当に楽しかったです。次の行事はステパノまつりですね！

先月号では、エリザベス・サンダース・ホームの「今」に焦点を当て、子どもたちと職員の生活について紹介しました。

今月は児童養護施設の役割や専門スタッフなどについて、もう少し詳しくご紹介します。

＊　＊　＊

児童養護施設は原則として二歳から十八歳未満の子どもが対象です。児童相談所長の判断に基づき、都道府県知事が入所措置を決定します。何らかの理由で保護者と生活できない子どもたちの成長を見守り、自立を支援します。

今後国は、里親等、グループホーム、児童養護施設が三分の一ずつ社会的養育を担うようにしていく意向です。施設であっても、少人数グループでの生活を推進しています。

エリザベス・サンダース・ホームでは、ＳＡ担当の早田さんが個別対応職員と呼ばれる専門職で、子どもに関する支援の総括を担っています。ほかにも、里親の育成や里親サロンを担当する里親支援専門相談員、心理・看護師・職業指導員などの専門職やファミリーソーシャルワーカーである家庭支援専門相談員が配置されています。背景も課題もさまざまな子どもたちへの支援にすべての職員が一丸となって、尽力しています。

また十八歳になったら特別な事情が認められない限り退所しないといけませんが、退所後の相談などの援助も児童養護施設の役割です。家庭で暮らしたり一人暮らしをしたり、退所後の生活の場はひとりひとり違います。進学する子も就職する子もいます。個々のニーズに応じてきめ細やかな相談に応じるのが職業指導員です。敷地内の自立支援棟で自立に向けての生活訓練をする場合もあります。一人暮らしをする子は特に、資金計画を立てて何にどのくらいお金がかかるのかを考える訓練もします。エリザベス・サンダース・ホームでは退所に向けての支援に早くから力を入れているそうです。

早田さんは、地域に開かれた施設を目指しているといいます。大磯町での会議に職員が出席して地域のニーズについて話し合いを重ねています。施設の専門性を期待され、大磯町の子育て支援に大切な役割を果たしています。また、民間の機関による第三者評価を三年に一度受け、客観的に評価された結果がインターネットで公表されています。

＊　＊　＊

ステパノの保護者として児童養護施設を正しく知りたいと思い取材をしました。社会的な期待が大きい上に求められる役割も多岐にわたり、大変さがクローズアップされる現場です。しかし「子どもの生活を守らないといけませんから」という早田さんのキッパリとした言葉が印象的でした。

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

○泳力検定　５級　中２　Ｇ・Ｎ

○実用数学技能検定

７級　小４　Ｒ・Ｔ

○平成 30 年度

少年・少女陸上交流記録会

男子 100m　小６　Ｓ・Ｋ、Ｈ・Ｎ

男子 800m　小４　Ｓ・Ｋ、小６　Ｋ・Ｍ

共通男子ジャベリックボール

小６　Ｒ・Ｔ

女子 100m　小３　Ａ・Ｉ、小４　Ｍ・Ａ、Ｍ・Ｔ

女子 800m　小５　Ｈ・Ｆ

二〇一八年度 第一回 学校説明会

と　き　七月七日（土）

一〇時～

ところ　海の見えるホール

【編集後記】

梅雨が明けて本格的に夏がやってきました。小学校の小さいお友達は、森のおとまりに全員参加することができました。学校での夜はドキドキだったようですが、楽しく過ごすことができました。来年も楽しみです。次は高学年・中学生のサマーキャンプです。（ひ）

代表者　学園長　小川　正夫
発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会
〒二五五－〇〇〇三神奈川県中郡大磯町大磯八六八
TEL　０４６３－６１－１２９８
FAX　０４６３－６１－９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇一八年七月五日（木）発行　第223号